

様式（評価機構フォーマット版）

平成27年度 自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

平成28年 6月10日

ドレスメーカー学院

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成27年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>今年創立 90 周年を迎えた杉野学園では、創立者杉野芳子の教育方針に基づき</p> <p>①挑戦（チャレンジ）の精神 ②創造する力 ③自立（自己実現）する能力を理念とした教育の徹底を図ることにより、ファッション業界で活躍する人材の育成に努めている。</p> <p>①挑戦（チャレンジ）の精神 企業やファッション業界のスペシャリストと連携をとり、時代の変化を技術や教育に反映させる。</p> <p>②創造する力 デザインのクリエイション教育だけでなく、コミュニケーション、プレゼンテーション能力など自己表現の優れた人材教育を目指す。</p> <p>③自立（自己実現）する能力 ここ数年続く高就職率をより 100%へと近づける努力を重ねる。</p>	<p>本年度は、時代に適応した実践的な教育を充実させるため、全学科において、教育目標の再確認とカリキュラムの見直しを行う。</p> <p>カリキュラムの見直しにおいては、特に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携のカリキュラムを各科に取り入れることにより“今”に即した実学教育の拡充を図る。 ・各カリキュラムの内容が連動して確実な成果が見られるよう、PDCA サークル (Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Act 改善)に基づき計画を進める。 ・卒業年次では、社会人として即戦力となるカリキュラムを必ず取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムの見直し 自己点検・自己評価委員会において、全学科のカリキュラムの見直しを行った。産学連携の科目とその内容を取り入れたと同時に学科内及び学科間の科目の関係を整理し体系付けた。 ●産学連携授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・高度アパレル専門科 3 年 ・アパレル技術科 3 年 ・アパレルデザイン科 <p>株式会社サンウェルより素材提供をしていただき、株式会社ココベイ指導のもと、株式会社シナジープランニングの坂口氏に指導を受けながら「商品企画」の授業を行った。その作品は 2016 年 1 月 26~27 日クエストホールの展示会で展示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションサービス科 2 年 サヴィーのマネージングディレクター牧氏指導のもと、「ブランディング」の授業を行った。高得点者 4 名の企画書を「ブランドデビューファッションコンテスト」に応募し 2 名が 1 次審査を通過した。 	<p>カリキュラムの改定のために学則別表の改正が必要となるが、届出等の準備期間もあり、平成 29 年度からの改定となる。</p> <p>平成 28 年度は、現行カリキュラムの下で実行可能な教育内容の改善を行う。その例として下記のような改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服飾造形科 2 年 主に販売員として就職する生徒に対しフォローアップができていないため、次年度よりプロ講師である藤永氏に「接客スキル」の講義を依頼し、産学連携授業で取り組むこととする。 ・ファッションサービス科 ファッションサービス科の教育目標と学科名が一致していないことが判明したため、科名を平成 29 年度より「ファッションビジネス科」と名称変更をすることとした。 ・アパレル技術科 3 年 産学連携で行った「商品企画」の授業が科の目的にあっていないことが分かったため、28 年度からはパターン技術に特化した産学連携に取り組むこととする。 ・「ブランドデビューファッションコンテスト」の 2 次を通過しなかった要因の分析と改善に取り組み、次年度も挑戦させる。このコンテストは、ファッションサービス科 2 年に加え、高度アパレル専門科 4 年も取り組む予定である。

最終更新日付	2016 年 6 月 10 日	記載責任者	布矢 千春
--------	-----------------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園の建学の精神と教育理念は、下記の3点と定めている。</p> <p>①挑戦（チャレンジ9の精神） ②創造する力 ③自立（自己実現）する能力</p> <p>この建学の精神と教育理念は、教職員はもちろんのこと、学生にも繰り返し話すことや杉野芳子の自伝、本学院のDVD、年史によって周知されている。同時に、学外への公表も記念誌発行やホームページなどで行っている。</p> <p>育成する人材像は、創立者杉野芳子という歴史に残る人物像がある。具体的には本学院の指標である「いい服には法則がある」に沿って、いい服とは何かということ自身を問い続け、基本を理解した上で創造力を持ち、挑戦する心を常に忘れない自立した聡明な人材である。</p> <p>大学全入、少子化の問題は本学院にとって最も深刻な問題で、入学者が年々減少し、なかなか歯止めがかからない状態であったため、オープンキャンパスの見直しなど打破すべき様々な取り組みを行ってきた。</p> <p>就職に関しては、就職部と教員（担任）と連携を取り、学生一人ひとりにきめ細かな指導を行い、昨年度就職率98.5%の成果を上げた。</p> <p>入学者の確保、就職率のアップと教育内容のより一層の充実を注ぎ、特に本年は就職率100%達成に向かい努力する。</p> <p>平成21年度より実施している産学連携の継続と、特に平成27年度は強化の一例として、産学連携を4学科に取り入れて成果を上げた。今後も実践的なカリキュラムを実施して即戦力となる実学を充実させる。また本学院では、毎年カリキュラムを密に検討し、時代に対応した教育内容や設備の革新を心がけている。今後もめまぐるしく変化するファッション界の動向や変化に対応し、求められる人材の育成にあたるよう、基礎教育の充実と共に、より企業に即した学科、カリキュラム等を検討していく。</p>	<p>本学園の創設者杉野芳子は、日本の近現代の過度期にあつて、単身渡ったアメリカで自分自身の生活体験の中から西洋衣裳の制作技術と服飾文化を身に付けた。帰国後、日本における服飾教育を開始したが、その目指すところは、日本における洋装の普及と服飾技術の習得による女性の自立であった。</p> <p>具体的には、洋装を日本人に適合させるための技術としてドレメ式原型を考案し、日比谷公会堂で日本初のファッションショーを開催するなど、日本における服飾教育の確立と、モードの創出に努めた。またファッションを20世紀の新しい芸術の一分野として捉え、パリのエレガンスを日本に紹介することにも取り組んだ。</p> <p>杉野芳子の取り組みの全てに探究心とチャレンジ精神があり、日本の服飾文化を切り開いたパイオニアスピリットに溢れていたのである。その根底には、服飾の知識や技術のみならず、時代を読む視点を学び、創造する力を養うことによって、物事の本質を見据える力を持つ人間形成を見据えている。</p> <p>1926年創立以来90年間、創立者の精神を受け継ぎながら、常に時代に対応したカリキュラムや設備の見直しと共に技術力と感性を兼ね備えた人材を育成している。</p> <p>本学院は、まず、基本とする「基礎力の充実」を図っている。基本となる技術と知識を習得することによって、クリエイションを生み出す力になると考えるからである。</p> <p>常に個性を尊重し、一人ひとりの才能を伸ばす教育に取り組み、卒業後の就職・進路などに明確な目的意識を持ち、恐れずに挑戦できる人間育成を目指す。</p>

最終更新日付

2016年 6月10日

記載責任者

布矢 千春

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営は、毎年度策定している事業計画書に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、中長期計画の目標との関連性も含めて年度毎に理事会・評議員会において審議されて決定している。</p> <p>運営方針・事業計画は、4月当初に開催される学園の全体会議（教員・職員）において周知徹底している。</p> <p>設置法人は、私立学校法及び寄付行為の規程に基づき理事会、評議員会等を開催し、議事録等を学園事務局で保管している。</p> <p>本学院の運営方針については毎年、学生募集実行委員会、主任会議、カリキュラム会議、職員連絡会議で会議を持ち、検討しながら取り組んでいる。今後もさらに委員会を充実させて強化を図る。</p> <p>特に学生募集においては、ここ数年苦しい状況が続いていたが、教員はモチベーションを高く維持し、教育内容の向上、カリキュラムの改善等の努力を重ねた上で、教員と入試広報課が連動し、学生募集におけるオープンキャンパスの改善等の努力の成果も見えている。</p> <p>学園全体の取り組みとして平成16年から諸規定が整備され、事務処理体制の充実強化、情報開示等が進み、各部署の会議が頻繁に持たれ、管理運営の改革、改善が図られている。</p> <p>節電、節約等、管理運営に関しては周知徹底されて、小さなことの積み重ねの改善に努めている。</p> <p>カリキュラムに関しては、毎年カリキュラム会議、主任会議等に於いて、教育目標・教育計画の検討を重ね、時代にあった授業展開ができるように努力している。</p> <p>大学全入・少子化の波の中、専門学校としての独自性をよりの確に伝える努力が必要であることから、本年はその成果として29年度から実施できるカリキュラムの大幅な見直しを行った。今後も業界の動向に即した運営が出来るように充実を図る。</p>	<p>本学院の運営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実（学生募集・対外アピール） ・カリキュラムの充実（授業内容・計画・指導方針） ・就職の充実（就職率アップ） ・服飾専門学校としての独自性の確立 ・教員の資質向上 <p>学園全体の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸規定の整備 ・事務処理体制の充実強化 ・理事会の改革 ・情報の開示 <p>平成27年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画の改訂 ・カリキュラムの改善 ・ドレメサマーセミナーの実施 ・ドレメキッズスクールの開催

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院の教育理念の基本である「基礎力の充実」を念頭に置き、各学科の特徴を出したカリキュラム編成になっている。</p> <p>平成 18 年 3 月に「ドレスメーカー学院自己点検・評価委員会」を発足させて以来、毎年、常勤・非常勤の授業アンケートや教員間での授業見学等を実施し、改善策等を見出して教員一人ひとりの意識も向上している。</p> <p>教員の専門性を高めるために各種研修会への参加、研究発表への取り組み等は充実した状況にある。常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集する努力も必要と考えている。</p> <p>資格取得に対して早い時期から授業内や授業外でも取り組み、指導体制は充実しており、成果も上がっている。</p> <p>教員間の連携を図る上で各種会議を定期的に行い、検討、改善を行なえる状況である。</p> <p>本年度より学校関係者評価委員会が発足し、常に業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討できる体制が整っている。</p>	<p>資格取得に対しては、本学院が検定試験会場にもなっており、全学的に資格取得に対して前向きな姿勢で取り組んでいる。</p>

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>ファッション分野における職業教育に特化した教育内容で専門知識や技術を修業年限に修得し、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。</p> <p>各学科においては、目指す職種に基づいたカリキュラムを構成することでファッション分野へ就職する意識を高めている。さらに就職部と担任が連携し、学生個々の就職相談や指導を行うことで、平成 22 年度からの就職率は 96%を維持している。特に専門職への就職率は 42%を占めており、教職員の就職への意識の高さがうかがえる。近年の問題点としては、留学生の就職の難しさであり、この改善が急務であることは教職員の意識は一致している。</p> <p>各学科で、必要とされる検定試験の受験指導を充実させて合格率のアップを図っている。</p>	<p>企業から信頼される学校と評価を定着させるため、就職後も卒業生の相談に耳を傾け、企業に必要とされる人材に成長できるように見守る。この結果次年度の内定につながる事となる。</p>

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が有意義な学生生活を送るためには、入学から卒業までを通して学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要である。</p> <p>就職・進学指導に関する体制は就職部が主導のもと教員との連携で就職支援を行っている。マナー講座等を含んだ様々なガイダンスの実施、学内企業説明会の開催、キャリアカウンセラーを配置し卒業年度生全員の個別相談を行っている。また、就職した卒業生からのメッセージやパネルディスカッションなどを行い卒業後の自分を考えさせ、働くことの意識付けの指導を強化している。その結果、ガイダンスなどへの出席率が上がり就職への意識向上と同時に就職率のアップに繋がっている。</p> <p>専任のカウンセラーを置いた学生相談室は早くから開設しており、担任、学生部、医務室の連携のもと迅速に学生の悩みの相談に応じている。しかし、直接相談できない、或いは帰宅後体調不良で相談したい学生の対応のため、平成 26 年 4 月より 24 時間健康相談や医療機関の情報などを電話相談が無料で受けられる「杉野学園サポートセンター」を設けた。このシステムは、保護者も利用できる。また、初期対応ができるように職員をインターカー養成セミナーに参加させ職員の質の向上に努めている。</p> <p>留学生の支援は、学生部に留学生担当を置き、学生生活上の悩みに対応している。留学生との面談などを行い留学生の要望に沿ったきめ細かい支援に努めている。</p> <p>学生の健康管理体制は、看護師常駐の医務室を開設し、毎年、春には全学生対象に定期健康診断を実施、診断結果によっては医務室において個別指導を行っている。また上記にも記したが 24 時間電話で健康相談が受けられるシステムを導入している。</p> <p>学生の経済的支援は、奨学金を必要としている学生が申込の機会を逃すことのないように、奨学金貸与希望者説明会を実施している。また、担任を通して新しい情報をその都度周知している。また、本学独自の奨学金制度や学費クレジットを導入し、学業を継続しやすいようにしている。今後も毎年見直し、社会情勢にあった支援を検討していきたい。</p> <p>課外活動については、学園祭、卒業制作発表会等を課外活動と位置付けて、各クラスの有志からなる実行委員が企画・運営をしている。また、ボランティア活動として地域のイベントなどに積極的に参加させている。</p> <p>遠隔地出身者のための学生寮を有している。また入寮できなかった学生には民間の学生会館や不動産会社と提携したアパート・マンションを安価で紹介している。</p> <p>入寮した学生には館内規則やルールのパンフレットを配布し指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 短期大学部・大学が併設されているため、就職部、教務部、学生部は学園として存在し、全ての学生を管轄している。そのため、課外活動などには流動的に対応している。 * 精神的或いは身体的悩みを抱えている学生対応のために、24 時間対応できる電話健康相談システム「杉野学園サポートセンター」を設けている。 * 経済支援としては、入学時から経済的負担を軽減させるために、平成 27 年度より新入生対象の「杉野学園新入生奨学金」「同窓生特別免除制度」「全国ファッションデザインコンテスト奨励金」制度を新設、その他従来からある「杉野学園奨学金」の採用枠を増やすなど本学独自の奨学金制度を充実している。 * 本学院の学生寮には、管理人が常駐し、学生の生活面の指導、支援を行っている。また学生が作品制作できるように作業室を設け、洋裁台・ミシン・ボディなどを設置しハード面においても支援している。

最終更新日付

2016年 6月10日

記載責任者

柴田 弘子

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備は、教育の必要性に応じて随時検討し、整備しており、メンテナンスの機能も充実したものとなっている。</p> <p>学外実習・インターンシップ・海外研修等については、各科の特色を出して科ごとに行っており、充実した内容で高い効果を上げている。</p> <p>防災に対する体制としては、災害対策本部制を設け、災害に対する訓練を教職員及び学生を含めた訓練を行っている。</p> <p>防災体制の充実と保険等も整備され、もしもの時の備えは万全ではないかと思われる。</p>	<p>パソコン、CG及びCADの台数が1人1台の割合でそろえている。</p> <p>ミシン、その他の服飾造形に必要な作業道具類が充実している。</p> <p>清掃が行き届いており、クリーンな教育環境になっている。</p>

最終更新日付

2016年 6月10日

記載責任者

宮崎 好明

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の募集と受け入れは、学校経営の根幹であると考えている。そのため、入り口から、在学中の教育内容、学生支援、出口である就職支援までの全過程が学生募集の一環と捉え、教員はじめ、各部署、すべての教職員の連携が必要である。</p> <p>高等学校への情報提供に関しては、入試広報部の高校訪問担当者が中心となって東京、神奈川、千葉、茨木、埼玉、群馬、栃木の高校を重点に訪問している。</p> <p>また、教員による高校訪問も強化。そのほか全国の高等学校の情報が掲載されている AOL システムを導入して、高校情報を把握、また訪問報告書も教職員が共有するようにしている。</p> <p>その他、高校生に直接接することができ、本学の教育内容を理解してもらうため、出張授業や校内ガイダンスに力を入れている。</p> <p>ホームページのリニューアル、学校案内、DM、新聞雑誌広告の見直しなども行うと同時にリクルートの提案による学校のイメージをタグライン化「いい服には法則がある」として広く周知することとした。</p> <p>入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。入学後の学生に対し、授業評価アンケートを実施し、授業改善を図っている。</p> <p>学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、検討を行い、見直し、適切な算定を行っている。</p> <p>近年、入学者数は年々減少していたが、平成 28 年度入学者数は昨年と比べ若干増加した。定員充足のために教育の内容の充実、オープンキャンパスの工夫に一層努力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 会場ガイダンスから校内ガイダンスへのシフト * 高校訪問の強化 * 出張授業の強化 * オープンキャンパス、体験入学の工夫（個別相談への誘導の強化）

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）									
<p>学校法人杉野学園の事業活動収支について、平成 24 年度、平成 25 年度は収入超過であったが、平成 26 年度は支出超過となった。これは本学の収入の大部分を占める学納金の減少によるところが大きい。平成 27 年度以降も学生数の減少が予想され、収入の減少傾向に歯止めがかかっていない。</p> <p>貸借対照表について、平成 26 年度の自己資金構成比率は 72.2%である。この比率は、高いほど財政的に安定しており、50%を割ると他人資金が自己資金を上回っているとされている。本学は 50%を超えているものの私学全体の平均値にまでは及ばない状況にある。学園全体の財務状況は、日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」において「B^{ゼロ}0」と区分されている。</p> <p>ドレスメーカー学院は過去 10 年にわたり支出超過の状態が継続しており法人全体の収支を悪化し続けている。現在、本学の収入の下支えをしてきた大学部門も学生数の減少によりこれ以上は他部門の赤字分を補うことはできない。ドレスメーカー学院はドレスメーカー学院自身での収支均衡が求められている。</p>	<p>赤字の原因については高い人件費依存率が考えられる。これは人件費が高いというわけではなく学生数が減少しているにもかかわらず、実習系の専修学校やクラス編成の理由で教員・職員を減らせていないことが原因である。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">ドレメ</td> <td style="text-align: center;">全国平均</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度専任教員一人あたりの学生数</td> <td style="text-align: center;">18.7 人</td> <td style="text-align: center;">20.4 人</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度専任職員一人あたりの学生数</td> <td style="text-align: center;">25.8 人</td> <td style="text-align: center;">40.5 人</td> </tr> </table> <p>本学はこれまで退職者の補充を抑える等経費の削減を行ってきたが、収入に見合った支出に抑えるべく、もう一度人件費から見直す。</p> <p>授業内容の改善向上を進め、学生募集活動をより強化し、入学者の増加を図ることによって、事業活動収支を改善することが急務である。</p> <p>学生募集活動の工夫と強化もあって、平成 28 年度の入学者は前年度よりかなり増加している。次年度以降も募集活動をいっそう強化して取り組むことにより、数年後には入学定員を充足することも可能である。これによって事業活動収支を黒字化することが可能となる。</p>		ドレメ	全国平均	平成 26 年度専任教員一人あたりの学生数	18.7 人	20.4 人	平成 26 年度専任職員一人あたりの学生数	25.8 人	40.5 人
	ドレメ	全国平均								
平成 26 年度専任教員一人あたりの学生数	18.7 人	20.4 人								
平成 26 年度専任職員一人あたりの学生数	25.8 人	40.5 人								

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。</p> <p>また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、主任会議、教職員全体会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。</p> <p>本学院では、平成 17 年 4 月 1 日の個人情報の保護に関する法律の前面施行に伴い、その保護のための対策として「個人情報の保護に関する規程」を定めた。</p> <p>個人情報の重要性を認識し適切に取り扱うための研修やミーティングを教職員対象に実施し、法令に則り各部署定められた対策をとっている。</p> <p>しかし、スマートフォンや SNS の急激な普及により漏洩につながる事件事故が多くなっている。</p> <p>今後は一層、個人情報の保護・管理には厳重にあたり、漏洩がないように教職員はもとより学生に対しても啓蒙活動を実施して意識向上を図る。</p> <p>社会規範に係る法令の遵守や学内諸規則の遵守については、全体会議や主任会議等において、理事長、院長から機会あるごとに注意を喚起し、リーガルマインドの浸透に努めている。</p>	

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域貢献、社会貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉えて推進している。</p> <p>品川区、目黒区の様々なイベントに積極的に参加している。</p> <p>また、地域の小学生を対象にドレメキッズスクールを開催して、本学院の特色である服飾のものづくりの楽しさを知ってもらう企画を実施している。</p> <p>学園祭（ドレメ祭り）では、地域の子供会と連携して「こどもハロウィンコレクション」を企画、子供たちがファッションショーに参加して交流を深めている。</p> <p>ドレメサマーセミナーでは、本学院の教員が研究発表を行い、高等学校の教員や服飾教育に携わる指導者などの研修の場として公開している。</p> <p>高等学校に本学院の教員を派遣し、出張授業を実施して高専連携を図っている。</p> <p>また、本学園が主催する「全国ファッションデザインコンテスト（一般の部）（高校生の部）」は、本年度 53 回を迎え、学内の施設で国内外から応募された作品の中から優秀作品をショー形式で発表。高校生の部は、展示で発表して広く公開している。</p> <p>産学連携プロジェクトによる「実務トレンドマーケティング」を実施し企業とも連携している。</p>	

最終更新日付

2016年 6月10日

記載責任者

柴田 弘子